

# 図 画 工 作 科

## 1 教科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想したり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を想像しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

教科の目標は、児童自身に本来備わっている資質・能力を一層伸ばし、表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す観点に立っている。

「表現及び鑑賞の活動」は、図画工作科の学習活動のことであり、児童が活動を通して学ぶ教科であることを示している。表現と鑑賞は、それぞれに独立して働くものではなく、互いに働きかけたり働きかけられたりしながら一体的に補い合って高まっていく活動としている。

物事を捉える視点や考え方については、図画工作科の特質に応じて「造形的な見方・考え方」とされ、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」であると考えられている。活動や作品をつくり出すことは、自分にとっての意味や価値をつくり出すことであると同時に、自分自身をもつくりだしていることにつながるという、図画工作科において大切にすることも示している。

### ○教科の目標(1)

前半では「知識」、後半では「技能」について示している。「知識」とは、形や色などの名前を覚えるような知識のみを示すのではなく、児童一人一人が、自分の感覚や行為を通して理解したものや、造形的な視点を活用できる「知識」として習得されたり、新たな学習の過程を経験することで更新されたりしていくものである。「技能」は、一定の手順や段階を追って身に付くだけでなく、変化する状況や課題に応じて主体的に活用する中で身に付き、児童一人一人の自分なりの「技能」は、豊かな思いに基づいた「思考力、判断力、表現力等」とともに初めて発揮されるものであるとされている。

### ○教科の目標(2)

「A表現」と「B鑑賞」を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」を示している。「A表現」では、形や色などを基に想像を膨らませる、造形的な活動や表したいことを思いつく等の発想や、どのように活動したり表したりするか考えるなどの構想をすること。「B鑑賞」では、作品をつくったり見たりするときに、よさや美しさなどを感じ取り、自分の見方や感じ方を深め、自分なりに対象や事象を味わうことができるようにすることとしている。

### ○教科の目標(3)

ここでは、図画工作科で目指す姿を示している。図画工作科の学習は、自らの感性や想像力を働かせながら、資質・能力を発揮して表現や鑑賞の活動を行い、つくりだす喜びを味わうものである。その過程では、おのずとよさや美しさを目指すことになる。これは、生活や社会に主体的に関わる態度を育成するとともに、伝統を継承し、文化や芸術を創造しようとする豊かな心を育成することにつながるとしている。よりよく生きようとする児童の情意の調和的な発達をねらい、図画工作科の学習が位置づけられている。

## 2 指導要領改訂の趣旨及び要点

### (1) 改訂の趣旨

中央教育審議会答申における成果と課題を受け、改訂の具体的な方向性が示され、図画工作科はそ

れに基づき、改訂が行われた。

(成 果)

- ・創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること。
- ・生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心を持って、生涯にわたり主体的に関わっていく態度を育むこと。

(課 題)

- ・感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成すること。
- ・生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化について実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること。

(具体的な方向性)

- ・感性や想像力等を働かせて、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるように、内容の改善を図る。
- ・生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深める学習の充実を図る。

(改訂の基本的な考え方)

- ・表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを一層重視し、目標及び内容を改善・充実する。
- ・造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させながら育成できるように、目標及び内容を改善・充実する。

## (2) 改訂の要点

### ① 目標の改善

#### ア 教科の目標

- ・生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力の育成の一層重視。
- ・育成を目指す資質・能力を、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理。
- ・特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「造形的な見方・考え方」を働かせることを示す。
- ・育成を目指す資質・能力の三つの柱それぞれに「創造」を位置付け、図画工作科の学習が造形的な創造活動を目指していることを示す。

#### イ 学年の目標

- ・育成を目指す資質・能力を、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理。

### ② 内容の改善

#### ア 表現領域の改善

- ・「A表現」の内容を「思考力、判断力、表現力等」の観点から整理して示し、「造形遊びをする活動」と「絵や立体、工作に表す活動」の指導事項の違いを明確に示し、それぞれの活動を通して、「思考力、判断力、表現力等」や「技能」を身に付けることができるようにする。

#### イ 鑑賞領域の改善

- ・「B鑑賞」を「思考力、判断力、表現力等」の観点から整理して示す。
- ・第5学年及び第6学年の鑑賞の対象に「生活の中の造形」を位置付け、生活を楽しく豊かにする形や色などについて学習を深めることができるようにする。

#### ウ 〔共通事項〕の改善

- ・〔共通事項〕(1)「ア 自分の感覚や行為を基に、形や色などの造形的な特徴を理解すること。」などを「知識」として位置付ける。
- ・〔共通事項〕(1)「イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。」などを、「思考力、判断力、表現力等」として位置付ける。

#### エ 「知識」についての配慮事項の明示

- ・内容の取扱いに、〔共通事項〕(1)アの指導に当たっての配慮事項を示す。